



PROGRAM

熊本市現代美術館 × RKK 熊本放送
「ミュシャ展 マルチ・アーティストの先駆者」
プレミアム企画

田中彩子 有島京 リサイタル

2024 **3/20** (水祝) 13:15 開場
14:00 開演
熊本県立劇場コンサートホール

I部：有島京 (ピアノ)

ラヴェル : ソナチネ
第1楽章 中庸の速さで
第2楽章 メヌエット
第3楽章 生き生きと

ラヴェル : 水の戯れ
シマノフスキ : メトープ作品29より ナウシカア
ヤナーチェク : ピアノソナタ

1905年10月1日、街頭にて
第1楽章 予感
第2楽章 死

～休憩～

II部：田中彩子 (コロラトゥーラ ソプラノ)

ドビュッシー : 月の光
フォーレ : ヴォカリーズ・エチュード
ドビュッシー : 星の夜
メシアン : ヴォカリーズ・エチュード
ハーン : クロリスへ
デラクア : ヴィラネル (田園詩)
プーランク : 愛の小径

ピアノ 有島京

13:50 プレトーク 「ミュシャと音楽」

◎熊本市現代美術館主幹兼主査
学芸員 富澤治子

◎ミュシャ展熊本アンバサダー
糸永有希 (RKKアナウンサー)



本日の公演の感想をお寄せください。
3月23日(土)23:59までにお寄せ頂いた方から
抽選で30の方に、ミュシャ展熊本
特製クリアファイルセットをお送りします。

主催：
ミュシャ展熊本実行委員会
(熊本市現代美術館[熊本市、公益財団法人
熊本市美術文化振興財団]、RKK熊本放送)、
熊本日日新聞社

※掲載作品：書籍『装飾アルバム』より「花言葉」(p.35)
1900年、書籍『装飾図案集』より図版 p.48 1901年
(共に部分) チマル・コレクション

特別協賛：

熊本中央信用金庫

PERSONAL GAIA
テクノクリエイティブ

PLACUP
GROUP



日本が
世界に誇るコロラトゥーラ
Ayako Tanaka

田中 彩子 (コロラトゥーラ ソプラノ)

18歳で単身ウィーンに留学。22歳でスイスベルン州立歌劇場にて同劇場日本人初、且つ最年少でのソリスト・デビューを飾る。国際ベルヴェデーレ・オペラ・オペレッタ・コンクールにてオーストリア代表として本選出場を果たし、その後ウィーンをはじめロンドン、パリ、プエノスアイレス等世界で活躍の場を広げている。作曲家エステバン・ベンセクリが彼女の声にインスピレーションを受け作曲した「コロラトゥーラ・ソプラノとオーケストラのための5つのサークルソング」でアルゼンチン最優秀初演賞を受賞。同アルバムは英国BBCクラシック専門音楽誌にて5つ星に評価された。日本でも2014年エイベックス・クラシックスよりCDを発売し、デビュー以来、全国でリサイタルツアーなどの演奏活動を重ねており、国内外で活躍している。

TBS「情熱大陸」や NHK BS「ザ・ヒューマン」などのメディア出演も多数。Newsweek誌「世界が尊敬する日本人100」に選出。2021年舞鶴市文化親善大使に就任。2022年京丹後市国際交流アドバイザー、宮津市文化芸術ブランドアンバサダー就任。《SDGs x 芸術》をテーマに活動する法人、Japan MEP／代表理事 学校法人 AICJ 鷗州学園 理事長 京都府出身、ウィーン在住。

ミュシャと音楽

ミュシャと音楽の関係について最も有名なエピソードは、1908年、48歳の折に、ボストン交響楽団のコンサートにてスメタナの交響曲「わが祖国」を聴いたことによって、芸術を通じて祖国への貢献を誓ったことです。その決意は、1918年に新しく建国したチェコスロヴァキアの国章、紙幣、切手などのデザインを無償で引き受けたことや、最晩年の連作《スラヴ叙事詩》の制作へと繋がっていきました。

そして、ミュシャに限らず、19世紀末ヨーロッパ各地で大流行したアール・ヌーヴォー様式における、一定のリズムでエンドレスに続く曲線と、異国的あるいは民族的なモチーフをミックスして多用する装飾性の高さなどの特徴は、同時代の音楽におけるフレーズや主題がリピートされることで印象が深まっていく効果や、異国的・民族的なリズムや音階をアクセントに使うことで耳新しさを出す効果などとイメージが重なる点で響きあうものがあります。

19世紀末のイギリス人批評家ウォルター・ペイターによる「すべての芸術は絶えず音楽の状態に憧れる」という有名な言葉は、そのような当時の最先端の芸術の雰囲気を端的に示すものでもあるでしょう。

今回のリサイタルでは、田中彩子さんと有島京さんに、「ミュシャ」をテーマに選曲していただいております。ミュシャと同じ時代を生きた音楽家達の楽曲ですので、ミュシャ本人も多くを耳にしたことでしょう。フランスのベル・エポックの優美さから、チェコの民族運動の激動まで、ミュシャのドラマティックな人生を想起させるラインナップです。 (熊本市現代美術館主幹兼主査・学芸員)

※会場投影作品：

連作装飾パネル「一日：朝の目覚め、昼の輝き、夕べの夢想、夜のやすらぎ」1899年、連作装飾パネル「星：北極星、月光」1902年、連作装飾パネル「四季：春、夏、秋、冬」1896年 チマル・コレクション



熊本から
世界へ羽ばたくピアニスト
Miyako Arishima

有島 京 (ピアノ)

熊本県人吉市出身。桐朋女子高等学校音楽科ピアノ科を卒業後、ポーランド・ビドゴシチへ留学。ポーランド国立ビドゴシチ音楽院ピアノ科学士課程および修士課程を修了し、優秀生として表彰される。その後ポーランド政府奨学金を受け、同音楽院研究科を修了。これまでに家城由紀恵、竹内啓子、カタジーナ・ポボヴァ=ズイドロンの各氏に師事。第34回霧島国際音楽祭にて音楽祭賞を受賞、第10回ダルムシュタットシヨパン国際ピアノコンクールにて第5位受賞。第17回シヨパン国際ピアノコンクール出場後、ビドゴシチ市長より特別賞を受賞。ドイツ・ユルツェンにて行われた国際サマーアカデミーにて2度にわたりコンサートスカラシップを授与される。ヨーロッパ、アジアの各地で演奏を行っており、グシュタード・メニューイン音楽祭、サントリーホールチェンバーミュージックガーデン、霧島国際音楽祭などにも出演している。これまでに九州交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、クラフ室内管弦楽団、ビドゴシチフィルハーモニー管弦楽団などと共演。2019年自身初となるソロアルバム (Takemitsu Szymanowski Chopin Serocki -works for solo piano Miyako Arishima) をスタインウェイレーベルよりリリースした。サントリーホール室内楽アカデミー第6期修了。室内楽演奏にも積極的に取り組んでいる。

富澤 治子

2024 **3/21** (木) 11:00 ~ 12:00 **ミュージアムトーク & ミニリサイタル**

熊本市現代美術館 展示会場内

出演：田中彩子 (コロラトゥーラソプラノ)、有島京 (ピアノ) 司会進行：富澤治子 (熊本市現代美術館学芸員)

*当日観覧チケットをお求めの上ご入場ください。会場内が一時的に大変混み合うことが予想されます。トーク&リサイタルを直接ご覧いただける座席とスペースには限りがございますこと予めご了承ください。